

後記

杉村先生との意見交換会

「パイルド・ラフト基礎は支持形式の言葉である」について

令和7年10月9日（木）14:30より、会場SEED21の106号室で、杉村義広先生の講義を主に、意見交換会が行われた。参加者は杉村先生を含め7名でした。

講義の内容は、過去の木杭の事例や最近の超高層の設計事例などの説明から始まり、「地盤周期と地盤種別の関係」「摩擦杭・支持杭の支持力分担率の統計」「杭径（杭の底面積ではない）と基準支持力度の比例関係」「基礎スラブ⇒パイルキャップに変遷した経緯」などの説明がありました。

そして問題点としては「基礎の許容支持力は杭支持力のみとし、基礎スラブ底面における地盤の支持力は加算しない」ことが基礎指針に記載されていることである。支持杭であってもラフト（基礎）に接地圧が発生することを認識するということでした。

2019基礎指針

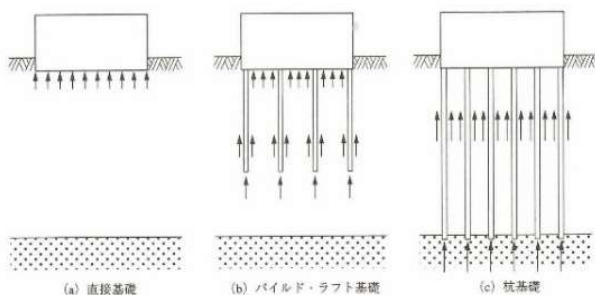


図7.1.2 基礎形式

講義を終えてからの他の参加者からの意見としては、

- ・先生が拘っている「パイルド・ラフト」と「パイルドラフト」の文字区切りの違いについて詳しく聞きたい。
- ・パイルド・ラフトの考え方を認識したことで、土間床の設計を怠っていたことに気づき今後は注意して設計したい。

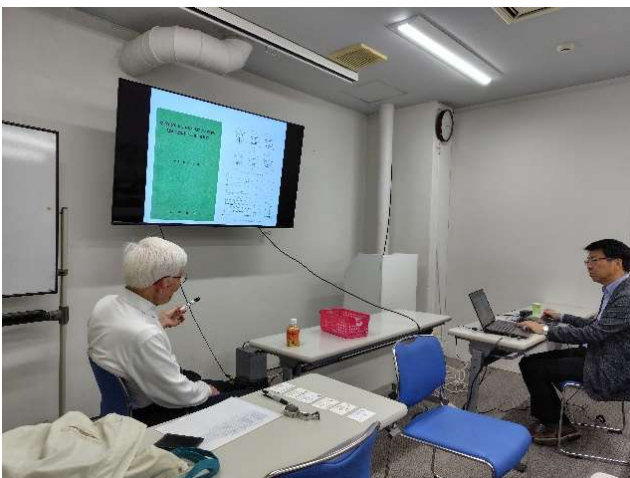
- ・基礎指針の基礎形式（左図）で、(c)杭基礎の図中に基礎下の接地圧の↑印が無いことは、何か意図があると思う。

などの意見がありました。

終えた感想として、講義の時間が2時間程分かり易い説明で、あっという間に講義の時間が過ぎた感じがして、難しい計算式の説明は少なかったが、沈下量の計算・杭と基礎の支持力の分担率計算などは構造設計者が決めなければならないことを感じました。

終わる間際の先生の話しとして、時間が足りず能登半島地震の杭の被害について話せなかったのも、また意見交換会を行いたい話しを頂きました。

貴重な講義を頂きありがとうございました。



JSCA 東北支部事務局長 渡部恵一